

大学

企画課管理用 教 — C — 5

推進主体	国際センター
責任者	国際センター所長

分類			実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
教	—	C	⑤ 日本文化プログラムの構築	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

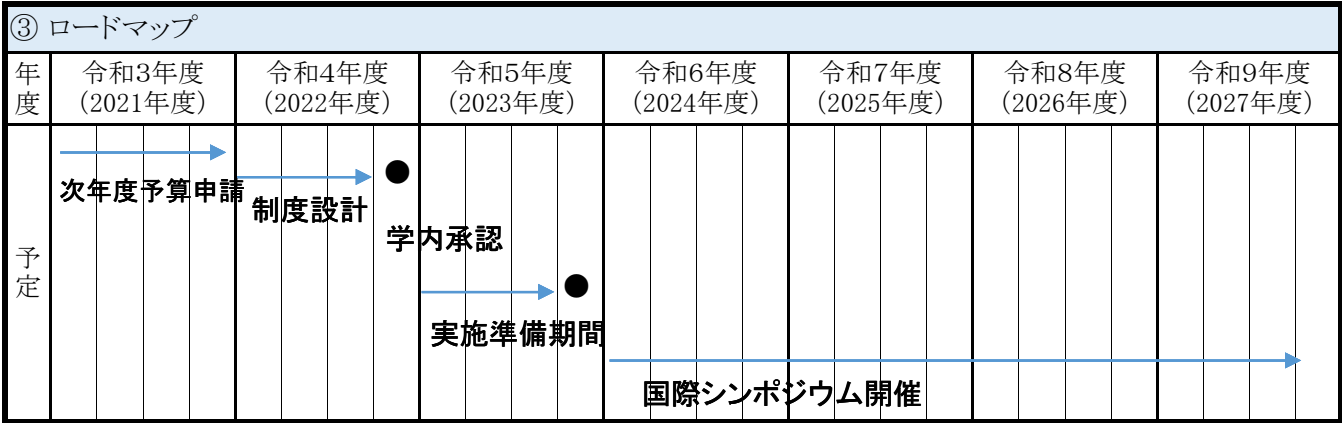
国際センターでは、フランスのアルザス・欧州日本学研究所(CEEJA)との連携により、平成25年度より本学学生の海外フィールド研修を実施しており、研修は、現地のストラスブール大学の学生と共に、ヨーロッパの中心で日本の政治・文化・歴史・経済・サブカルチャー等のテーマで交流するほか、ヨーロッパにおける日本研究者の講演等を通じて欧州における日本研究の現状を理解する内容となっている。

本事業では、将来的に毎年定期的に本学教員がCEEJAにおいて「日本文化」に関する研究成果を発信するための拠点を構築し、CEEJAとの連携プログラムを始めて10年目となる令和4年度より、これまでのCEEJAと本学との関係を更に発展させ、「日本文化」に関する研究を通じて新たに研究者レベルでの交流を促進させる役割を担うことを目的とする。

本事業の推進に当たっては、PD共同研究員を雇用し、学内外の調整・運営体制の構築を担っていただく予定である。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

令和9年度までに、CEEJAにおいて毎年定期的に「日本文化」の研究成果を発信するための国際シンポジウムを開催する拠点をCEEJAに構築する。



④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

(様式2) 実施計画書 兼 報告書

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
令和4年度 (2022年度)	CEEJA、ストラスブール大学に対し、本学の「日本文化」研究成果を発信する国際シンポジウムの開催について、協力を依頼するとともに、各学部等に対し、本事業に賛同する教員を募り、本事業を実施するための運営体制を模索する。なお、学内外の協力体制が構築できる見通しが立った段階で、国際シンポジウムの運営方法等の詳細を詰めていくが、上記のロードマップに記載のとおり、実施準備期間は令和5年度に予定している。	「日本文化」に関する本学の研究成果を発信する国際シンポジウムの開催については、CEEJA、ストラスブール大学へ協力要請を行い内諾を得た。学内においても、各学部・研究科の教員複数名に対し本事業への参加を打診し、こちらも内諾を得た。また参加予定教員らの研究領域を基準として上記シンポジウムの開催テーマ、日仏双方の登壇者等について協議した。上記の通り、令和6年度の国際シンポジウム開催に向けた協力体制の構築に見通しが立った一方で、今後、より具体的な運営体制の整備、シンポジウムの日時や内容に関する関係各所・参加者との協議が必要とされる。 ★進捗段階:「計画立案」
令和5年度 (2023年度)	まずは令和6年度における「日本文化」に関する国際シンポジウムの開催に向けて運営体制を整える。具体的にはCEEJA、ストラスブール大学、及び学内の教員へ正式に協力を依頼する。また、シンポジウムの日程を決定すると共に開催テーマを定め、これに基づいて登壇者を選定し参加を打診する。当該シンポジウム開催に必要な予算案を作成する。なお、令和7年度以降の国際シンポジウム開催の在り方について関係各所と協議を続ける。	引き続き、令和6年度に開催する「日本文化」に関する国際シンポジウムの開催に向け、本学関係者とCEEJA並びにストラスブール大学との間で協議を行った。当該シンポジウムのテーマについては「日本の漫画・アニメーション再考」(仮)と定め、開催に必要な予算案を作成し、開催時期・場所・方法や講演者・報告者の決定・選定へ向けた調整を本年度前半に進めた。また、後半には、限られた予算内で、当初の目的を達成するための最善のかたちを模索し、会場(日本もしくはフランス)、会議形態(リアルのみもしくはハイブリッド開催)、また、通訳の手法など国際シンポジウムにおける手筈を整えるための関係各所・参加者と継続して協議を続けた。 ★進捗段階:「計画立案」
令和6年度 (2024年度)	令和5年度に検討した実施計画案・予算案に基づき国際シンポジウム「日本の漫画・アニメーション再考」(仮)を11月初旬(予定)に開催する。また、開催に向けての最終調整を続けるとともに、国際シンポジウムに必要な手筈を整える。まずは、早い段階で登壇者を確定し、現地への航空券/宿泊の手配、講演の抽象化準備に取り掛かる。また、現地については、シンポジウム拠点のCEEJAとの委託契約及び使用システムの確定、配信機材の手配などがある。本シンポジウムを通じて、日仏の研究者交流の促進を図る。	CEEJAとの共催により下記の通り国際シンポジウムを開催した。 タイトル:日本の大衆文化と西洋-漫画・アニメーション、ジェンダーをめぐる 日時:令和6年11月2日(土)、3日(日)17:00~20:00(日本時間) 会場:ウンターリンデン美術館(フランス)※Zoom同時配信 使用言語:日本語(フランス語同時通訳) 構成:発表者4名、モデレーター1名、コメンテーター1名(両日共) 初日には、在ストラスブール日本国総領事にも本シンポジウムに向けたメッセージを頂戴し、現地参加者を始め、日本とフランス、欧州各国・アメリカ・アジアから200名を超える聴衆が参加(含オンライン)し、質問や意見も尽きることがなく、大変充実した日本文化の研究成果発信の場となった。なお、今回の研究成果については、当センター研究年報及びHPで発表する。 ★進捗段階:「展開完了」
令和7年度 (2025年度)	本年度は、令和6年度に開催した国際シンポジウム「日本の大衆文化と西洋-漫画・アニメーション、ジェンダーをめぐる」の成果に基づきつつ、またCEEJAとの連携を保ちつつ、引き続き「日本文化」に関する研究者レベルの交流を促進する。そのため、当該シンポジウムの登壇者がインターネット上で一堂に会する機会を設け、開催時に十分に検討できなかった問題について議論を継続する。また、令和6年度開催実績を検証するとともに、本プログラムの今後の在り方についてCEEJAや関係各所と協議を行い、プログラムの集大成となる令和8年度の新規学術イベントの実施に向けて、予算案を含め運営体制を構築する。	2025年度にCEEJAの担当部門である教育部門が活動を取りやめたため、やむなく連携を解消し、当センターが単独でプロジェクトを継続した。前半には、令和6年度に開催した国際シンポジウム「日本の大衆文化と西洋-漫画・アニメーション、ジェンダーをめぐる」の成果を振り返るためのシンポジウムへ向けた準備を行い、下記の通り開催を予定している。 タイトル:「日本の大衆文化と西洋」再考-引き続き漫画・アニメーション、ジェンダーをめぐる 日時:令和8年2月28日(土) 会場:学習院大学 構成:発表者4名、コメンテーター1名 本シンポジウムは、昨年度のシンポジウムでは十分に時間を取れなかった発表者間の意見交換の場を確保し、各人の発表内容、その成果と課題を議論するために開催する。会の終盤では会場参加者を含め活発な議論を展開したい。今回の研究成果については、当センター研究年報及びHPで発表する。 また、後半には、令和8年度に開催予定の国際シンポジウム「日本の動物と大衆文化」(仮)のための予算案を作成し、開催時期・場所・方法や講演者・報告者の決定・選定へ向けた調整を進めた。 ★進捗段階:「展開完了」
令和8年度 (2026年度)	本年度は、これまでの成果の集大成として、「日本文化」に関する国際シンポジウム「日本の動物と大衆文化」(仮)を11月初旬に開催し、研究者レベルでの交流を促進する。開催に向けての最終調整を続けるとともに、国際シンポジウムに必要な手筈を整える。まずは、早い段階で登壇者を特定し、登壇者間での意見調整を図り、講演の抽象化準備に取り掛かる。会場は学習院大学とし、講師の招聘に必要な各種手配、使用機器の準備を行う。本シンポジウムを通じて「日本文化」を国内外に発信する。シンポジウム終了後、これまでの実施した事業の総括を行う。なお残念乍ら、州政府の方針によるCEEJAの体制変更に伴い、ヨーロッパにおける研究拠点の構築は叶わなかった。しかしながら、本事業を通して協定校ストラスブール大学の日本学科との研究交流も深まり、今後の教育・研究事業は新たにJ-educationを後継として継続させたい。	